

DBJ 防災トランスフォーメーションフォーラムに参加しました（2025/9/8）

テーマ：防災国際標準化・リスクファイナンス

会場：大手町フィナンシャルシティ サウスタワー3 階 カンファレンスセンター

2025 年 9 月 8 日（月）、株式会社日本政策投資銀行主催の「DBJ 防災トランスフォーメーションフォーラム」が開催され、当研究所から越村俊一教授（副所長／災害ジオインフォマティクス研究分野）をはじめとする関係者が出席しました。

本フォーラムは、企業、行政、研究機関、金融関係者が事前防災の重要性や最新の課題解決技術への認識を共有し、防災をコストではなく新たなビジネス機会と捉える「防災トランスフォーメーション」の機運を高めることを目的としています。その実現の鍵として国際的なルール形成の重要性が強調され、特に当研究所も策定に関わるリスクファイナンス規格（ISO 37116）は、災害リスクを科学的に評価し事前投資を促す金融ガイドラインとして、レジリエントな社会構築の基盤となることが期待されています。

越村教授は、「防災の産業化と国際ルール形成への挑戦」をテーマとしたパネルディスカッションに登壇しました。当研究所発のスタートアップである株式会社 RTi-cast が展開するリアルタイム津波浸水被害予測システムを紹介し、地震発生から数分以内に被害規模を高精度で予測する本システムの社会実装例や、海外展開を含む今後の展望を解説しました。さらに、デジタルツイン構築による災害対応の高度化研究にも触れ、科学的知見に基づく実践的な防災ソリューションとして会場から大きな関心を集めました。

また、フォーラム閉会後のレセプションでは、日本が主導して策定を進めている防災に関する国際標準規格開発の関係者が紹介されました。当研究所からも西川智特任教授（客員）（2030 国際防災アジェンダ推進オフィス／本務先：JICA）、小野高宏特任教授（客員）（津波工学分野／本務先：東京海上ホールディングス株式会社）、鎌田健一特任教授（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）がそれぞれの立場で防災の国際標準化の取組について説明しました。金融機関や企業関係者との交流の場で、本学が推進する防災国際標準化の理念や重要性を PR する絶好の機会となり、当研究所の先進的な研究成果を社会に広く発信するとともに、防災分野における産学官金の連携を深化させ、国際的なルール形成に貢献する上で、大変有意義なものとなりました。



講演する越村教授

文責：鎌田健一（地震津波リスク評価（東京海上日動）寄附研究部門）